

チリ地震津波被害から五十年…

五月二十四日

津波防災避難訓練実施

〓町民七十三人が参加〓

五月二十四日、浜中町及び浜中町防災会議が主催し、津波防災避難訓練が行われました。

今年、昭和三十五年被災のチリ地震津波被害から五十年目の節目を迎えました。また、二月二十七日にはチリ中部沿岸でおきた遠地震による津波の発生にともない、翌日の二十八日には太平洋沿岸に津波警報と避難勧告が出され、浜中町においても長時間の避難を余儀なくされました。

過去の様々な記憶が蘇る中、今年も、午前六時二十五分頃、緊急地震



速報の放送訓練を実施。

「午前六時二十六分頃、釧路地方を中心に大きな地震が発生し、札幌管区気象台は、午前六時二十八分浜中町の震度は六弱、北海道太平洋沿岸東部に津波警報発令」がされたことを想定し、午前六時三十三分、町長より避難勧告が発令され、沿岸十四地区十八の指定避難場所に七百二十三人の町民が参加し行われました。

今年も、浜中消防署、浜中消防団による避難場所での避難人数の確認等のご協力と、赤十字奉仕団による

実際に災害が起き避難勧告の発令に伴う避難後からの活動について、より実践的な確認訓練が行われました。また、今年初めて厚岸警察署と霧多布市内の五町内会のご協力により、津波防災避難訓練終了後、「霧多布温泉ゆうゆ」を会場に図上避難訓練を実施いたしました。



この訓練は、災害発生時に住民自らが津波警報が発表され、避難勧告が発令された時や、避難所でのような行動をとるか等についてグループ内で確認していただき、防災における行動意識の推進を図るため、図

上で避難経路等をシミュレーションするものです。

参加された方は、改めて避難場所や経路を見つめ直し、自主的な防災意識が高まったことと思われます。実際に災害が起こることは誰もが望んでいませんが、五〇年前の大災害を再現させないためにも、年に一回の津波防災避難訓練を契機に、ご家庭や職場においても災害について考えてみてはどうでしょうか。



地震・津波は、いつ起こるかわかりません。日常生活において、地震・津波が起きたとき家族がとるべき行動を話し合い、災害がおきたら、家族の集合場所や連絡方法、非常持出品などについて確認しておくことが大切です。